

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201007 環境デザイン I	快適な居住間をつくるための方法やポイントについて理解できる。熱の伝わりについて基礎的な事柄を理解できる。光環境の基礎的な事柄を理解できる。 快適で過ごしやすく、省エネを実現できる建築が求められている。これを実現するためには、光、熱、風、音などヒトが感覚的に捉えている要素を量的に把握して、快適性や環境の改善に役立てる必要がある。この講義では建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など環境形成の基礎について学習する。	オンデマンドでの授業を実施した。通常の授業に近い内容をアレンジし、コンパクトにしている。 建築士対応の基礎的な科目でもあり、学習量を保つことに配慮した。	授業評価 4.4(4.4、4.2、4.3、4.4、4.5) 積極的な学生からは、動画を止めてノートを書いたり、繰り返し見ることができたなどのコメントもあった。 オンデマンドに慣れない学生や、ボリュームに対応できなかった学生もいたことが推察される。 動画の見方など、わかりやすい導入教育が必要と思われた。
A201017 建築環境実験	建築環境に関する実験・実測を行い、結果の整理、分析、考察ができる。 居心地の良い建築空間や都市を考える上で、気温や湿度、気流、空気質、光、音などは体感に直接的に影響を与える要素である。これらは感覚的に言語にすることも可能であるが、積極的に設計したり、他者にその程度を伝えるためには定量的にそれを示す必要がある。環境工学実験では、環境の体験と計測を通じ、評価指標、分析方法についての基礎を学び、レポートして表現する力を身につける。	リアルな実験を実施することができないため、調べ学習などを行い、レポートとして取りまとめる内容に変更した。	授業評価3.8(4.3 3.6 3.6 4.0) 実験の様子を動画として示すなど、課題のバリエーションを広げられる可能性があった。 当授業は、新カリキュラムに含まれないことから、次年度の実施はない。
A201024 木造住宅設計 I	木造住宅の設計に求められる図面表現手法および木材加工の基本を理解できている。 図面の作図、軸組模型の製作を通じて木造住宅の設計に求められる図面表現手法および木材加工の基本について習得する。また、レクチャーを通して木質材料で構成された空間づくりについて理解を深める。	木工による仕口制作の課題を想定していたが、遠隔授業に対応する為、手描き作図、CAD、BIMを用いた木造架構を表現する課題に変更した。ZOOMを用いた授業を随時取り入れ、学生への説明を行いながら、課題の制作を後押しした。	授業評価3.90(3.7 3.7 3.9 4.3 4.0) 模型材料の調達もままならず、学生が所有するPCのスペック、ソフトのインストール状況など不確定な要素も多いことから十分なサポートに至らなかった可能性がある。体験的、実践的な授業については、登校しての教育をある程度取り込むことが必要であろうと考えられる。
A201038 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	ZOOMを用いた遠隔でのゼミを実施した。毎週のゼミへの対応に学生が苦慮していた可能性がある。ZOOMを用いることにより、緊張感あるゼミができた一方で、ゆるやかさ、おろかさなくなかったことも否めない。	授業評価3.90(4.0 4.0 3.7 4.0 3.7) 学生のペースにあわせたゼミを運営する必要があると思われる。
GA20104 建築学特別研究A	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。	ZOOMを用いた遠隔でのゼミを実施した。毎週発表を行い、コメントを行うなど、しっかりと研究に取り組むことができた。	学生のペースにもあわせたゼミを運営する必要があると思われる。
L201043 キャリアデザインV	就職活動の準備としてインターンシップ参加に必要な書類を作成し、志望動機、自己紹介文を作成できるようにします。インターンシップに参加し、記録を作成できる。	コロナ感染防止対策のため、企業インターンシップへの参加は実施せず、ZOOMを用いた授業、調べ学習、レポート作成などの課題を実施した。企業研究やエントリーシート作成などは取り組むことができたが、企業での実体験はできなかった。	授業評価4.2(4.4 4.1 4.1 4.1 4.4) コロナ感染防止に配慮した企業インターンシップへの参加も検討する必要がある。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201013 建築設計演習 I	<p>達成目標</p> <p>①建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。</p> <p>②「建築・空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。</p>	<p>教員4名により4グループに分かれてオンラインでの授業とし、毎講、設計課題の進捗をチェックバックしていく講義とした。指導を求める学生に対しては、メール等のやり取りでの指導回数が増し、より理解度の向上に繋がった。後半では、数回の対面授業を人数制限などを考慮し行い、最終成果の調整としての講義となった。</p>	<p>授業評価4.2(4.4、4.0、4.2、4.2、4.2) 回収率32.3% 科目GPA2.9</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A201020 建築設計製図Ⅲ	<p>達成目標</p> <p>①立地環境や建物の構造を理解して、設計図面(配置図、平面図、立面図、断面図)作成できる。建築のイメージを表現できる手法と伝えられることを習得できる。</p> <p>②中規模施設を設計する構想力をつけることを目的とします。</p> <p>③建築物の外部(エクステリア)・内部(インテリア)の生活シーンをイメージし、さらに周辺環境とのかかわりを含めて検討するなどの空間設計力、構想した建築空間をより分かりやすく相手に伝えるための図面表現力も養います。</p>	<p>隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方であった授業内容を組み立てた。対面授業では、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>授業評価4.7(4.7、4.7、4.7、4.7、4.7) 回収率12.5% 科目GPA3.8</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A201031 商業施設計画	<p>達成目標</p> <p>①商店街・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、空間構築と商業施設計画への応用が出来るようになる。</p> <p>②社会環境の変化と生活の多様化に伴う商店街や大型店舗の計画や業種計画への関連性を学び、これからの地域計画・街づくりにおける商業施設計画の進め方について理解を図ることを本講義の目的とします。</p>	<p>オンラインによる授業と遠隔授業の隔週型での講義であった。内容としては、課題を遠隔授業によって作成したものを、オンラインによる授業で発表する方法で、コメントを出しコミュニケーションしていく事で、課題の研究内容が理解し易い内容になって行った。対面授業とは異なり、時間的な制約がある中で要約した発表に繋がった授業であった。</p>	<p>授業評価4.1(4.4、3.8、4.2、4.2、4.0) 回収率23.8% 科目GPA2.2</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A201031 商業施設計画	<p>達成目標</p> <p>①商店街・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、空間構築と商業施設計画への応用が出来るようになる。</p> <p>②社会環境の変化と生活の多様化に伴う商店街や大型店舗の計画や業種計画への関連性を学び、これからの地域計画・街づくりにおける商業施設計画の進め方について理解を図ることを本講義の目的とします。</p>	<p>オンラインによる授業と遠隔授業の隔週型での講義であった。内容としては、課題を遠隔授業によって作成したものを、オンラインによる授業で発表する方法で、コメントを出しコミュニケーションしていく事で、課題の研究内容が理解し易い内容になって行った。対面授業とは異なり、時間的な制約がある中で要約した発表に繋がった授業であった。</p>	<p>授業評価4.1(4.4、3.8、4.2、4.2、4.0) 回収率23.8% 科目GPA2.2</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A201041 卒業研究 I	<p>達成目標</p> <p>①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。</p> <p>③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方であった授業内容を組み立てた。対面授業では、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>授業評価4.5(4.5、4.5、4.5、4.5、4.5) 回収率33.3% 科目GPA3.8</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201003 基礎製図 I	木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。	遠隔授業であったため作図の見本を郵送し、パワーポイントを用いて、製図道具の使用方法や、建築図面の基本的な表記方法を段階的に把握できるよう、各課題ごとにZoomで解説を行った。また、個別に指導が必要な学生には、製図室を開放しサポートを行った。	授業評価4.3(4.4、4.1、4.3、4.4、4.3) 回収率93.4% 科目GPA2.5 遠隔授業では、線の意味や、記号の意味を理解して描いているのか、図面を描き写しただけなのか判断が困難であった。特に演習では対面による授業の必要性を感じている。
A201013 建築設計演習 I	建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。	教員4名により4グループに分かれての遠隔授業。Zoomとメールを活用し、エスキースなどのチェックバックをし、希望者には対面でサポートを行った。	授業評価4.2(4.4、4.0、4.2、4.2、4.2) 回収率32.3% 科目GPA2.9 遠隔授業では微妙な意図が伝わりにくく、遠隔に対応できない学生もいるため、特に演習では対面による授業の必要性を感じている。
A201043 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	前半は、Zoomによる遠隔授業であったが学生の要望を受け、後半は対面での指導となった。設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行った。個々のテーマや能力に応じ、具体例を提示しながら進めた。	授業評価5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率16.7% 科目GPA2.5 コミュニケーションが不得意な学生もいるため、個別指導となり受け身に回る傾向が見られる。学生自らが主体的に考え、学生同士でもディスカッションできる環境を整えていきたい。
GA20108 建築学特別研究A	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。	前半は、Zoomによる遠隔授業であったが、後半は対面での指導となった。設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、研究計画の作成を行った。	授業評価5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率100.0% 日本語が不得意な学生もいるため、研究内容が深まらない傾向が見られる。日本語能力を向上し、ディスカッションできる環境を整えていきたい。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201013 建築設計演習 I	達成目標 ①建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 ②「建築」・「空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。	教員4名により4グループに分かれてオンラインでの授業とし、毎講、設計課題の進捗をチェックバックしていく講義とした。指導を求める学生に対しては、メール等のやり取りでの指導回数が増し、より理解度の向上に繋がった。後半では、数回の対面授業を人数制限などを考慮し行い、最終成果の調整としての講義となった。	授業評価4.2(4.4、4.0、4.2、4.2、4.2) 回収率32.3% 科目GPA2.9 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。
A201041 卒業研究 I	達成目標 ①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 ②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。 ③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。	隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方にあった授業内容を組み立てた。対面授業では、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。	授業評価 5.0(5.0 .5.0 .5.0 .5.0 .5.0) 回収率14.3% GPA3.0 各過程をチェックし進行具合を把握するために登校は一つの起点として重要と考えられる。また、達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。
A201011 建築計画 II	商業施設・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、モデルの構築と商業施設計画への応用が出来るまでを達成目標とします。	さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすいうようにした。コロナ火禍で登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	授業評価 4.2(4.3 .4.2 .4.2 .4.2.4.3) 回収率35.7% GPA3.0 カリキュラム・ポリシーに基づいて建築計画での専門性をより高めることを目標とした。毎週のUNIPA配信に加えて、遠隔授業だったためZOOMで授業を行ったりと試行錯誤したが、今後も建築を計画する前には、その用途の過去作品を分析し体系化して把握したうえでアイデアを出すことの重要性を伝えたい。
A201016 建築CG I	建築プレゼンテーションの表現技術は日増しに多様化・複雑化しておりより高度な表現が求められています。本演習では上記ソフトを使用し、より効果的な表現・プレゼンテーション能力を向上させることを目標とします。現在、建築設計においては多様なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討からイメージの伝達等、幅広く活用されています。まだ現実には立ち現れていない建築物のイメージを、より実感的に提示することが求められています。本演習では、複数のアプリケーションを用途に応じて活用した建築プレゼンテーションの作成技術を修得し、上述したような社会のニーズに応えられる能力の育成を目的としています。	さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、毎週分の視覚的に把握しやすい動画の資料を用意してUNIPA配信した。コロナ火禍で登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、動画配信は最良だったと考えられるが、睡眠時間が無く以後はできないため、静止画説明の資料作成が必要と考えられる。	授業評価 3.9(4.1 .3.7 .3.8 .3.9 .4.1) 回収率27.1% GPA3.3 非登校となったことで最も指導が困難な科目であったことは間違いない。まずはソフトが家庭で無料で操作し保存して継続作業ができるのか？その後インストール手順の解説、文字や絵では情報が少なすぎるので各週のPCソフト操作方法を動画で撮影し、それを毎週配信するという、途方もない時間がかかった。建築設計(住宅のデザイン・製図・設備・施工管理・維持・インテリアなど)が出来るようになるという学修到達目標を達成するため、CGによる図版を他者に説明し、自分の意図を伝える方法を3DのBIMソフトで修得させた。PC操作講義の遠隔授業には依然として課題が残る。BIMソフトは最新過ぎてまだ解説書がありません。
A201025 インテリア空間演出論	人の生活がより自由で豊かになるための空間デザインを着想するための諸課題が理解できる。また、それを実現するための比較検討や表現の方法が理解できる。「インテリア」という概念は、そこに含まれる内部空間の総体を指し、内部空間は自然光や影や床・壁・天井を構成する素材や家具や照明器具や生活でおかれるいろいろな小物や窓から見える風景など、様々な構成要素から成り立っています。事例を挙げてそれらの関係を1つ1つ見ていくことでインテリア空間の構成を深く理解していきます。また、インテリアに関わる資格についての関連事項も取り入れ講義します。	さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすいうようにした。コロナ火禍で登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	授業評価 4.1(4.3 .4.0 .4.0 .4.3 .4.0) 回収率23.5% GPA3.1 社会に認められ、多くの人に受け入れられるインテリアデザインの設計提案に際しては、相手にわかりやすい、効果的なイメージ表現が求められます。本講義ではインテリアデザインを具現化する能力をもった職業人育成のため、実践的な設計手法を理解することができます。
A201003 基礎製図 I	木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。	遠隔授業であったため作図の見本を郵送し、パワーポイントを用いて、製図道具の使用方法や、建築図面の基本的な表記方法を段階的に把握できるよう、各課題ごとにZoomで解説を行った。また、個別に指導が必要な学生には、製図室を開放しサポートを行った。	授業評価4.3(4.4、4.1、4.3、4.4、4.3) 回収率93.4% 科目GPA2.5 遠隔授業では、線の意味や、記号の意味を理解して描いているのか、図面を描き写しただけなのか判断が困難であった。特に演習では対面による授業の必要性を感じている。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
U201008 福祉社会のクリエイシヨ	<p>「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現況と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とします。</p> <p>福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待されます。</p>	<p>対面授業が不可能なため、オンラインでの課題提出と、定期試験も筆記試験からレポート試験となった。</p> <p>達成目標では、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることであったが、実際に町に出かける機会が極端に少なく、授業での議論ないなどもスムーズではないオンラインだけの授業では、知識的な理解にとどまり、十分に達成できずと言いがたい状況である。</p> <p>現況把握のためには、資料+実践も必要であり、授業回の5割程度は、対面授業で行うことを工夫して実施することが必要である。</p>	<p>授業評価3.90(4.0、3.4、4.0、4.1、4.1) 回収率58.3% 科目GPA2.08(F以外2.48)</p> <p>全体の科目GPAは低かった。授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができなかった状況を反映しているものとする。</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、工夫したい。</p>
A201010 建築CAD I	<p>具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業です。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待されます。</p>	<p>教員2名による2クラスに分かれて同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は43名で、対面授業が不可能なため、オンラインでの課題提出であったが履修生は積極的に取り組んでくれた。</p> <p>達成目標では、建築CADソフトによる2次元作図ができる、建築CADソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できるであったが、対面授業が不可能であったためCADソフトの種類や用途、専門用語の理解と建築CADソフトによる2次元作図方法の知識的理解にとどまり、十分に達成できずと言いがたい状況であった。授業回の5割程度は、対面授業で行うことを工夫して実施することが必要である。</p>	<p>授業評価4.20(4.3、3.9、4.3、4.3、4.3) 回収率27.9% 科目GPA2.07(F以外2.07)</p> <p>2019年度の4.36と比較すれば、全体の科目GPAは低かった。授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができなかった状況を反映しているものとする。</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、工夫したい。</p>
A201039 卒業研究 I	<p>授業の中でディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることと、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業であり、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待されます。</p>	<p>履修者数7名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であった。オンライン講義が主であったが、履修生は積極的に取り組んでくれた。</p> <p>履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。</p>	<p>授業評価5.00(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率33.3% 科目GPA2.17(F以外2.17)</p> <p>実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回答率が33.3%程度で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。</p> <p>研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201002 住宅のづくり	<p>達成目標 住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。</p> <p>また、建築に携わる者として自身の考えを他者に伝えるために、建築の工法や構造などの専門用語を身につけることも目的の一つです。本講義では、これらの理解と修得をもとに住宅建築で用いられる建築構法の在り方について考える基礎を養います。</p>	<p>オンデマンドで『3D図解による建築構法 第二版』、松村秀一ら、市ヶ谷出版社の教科書をまとめることができる課題を出しながら ZOOMでその説明を行った。</p> <p>1年生であったためZOOMや課題提出の方法が徹底されず はじめはわかりずらかったようだが 徐々に授業の方法にも学生が慣れることができ スムーズに進めることができた。</p>	<p>授業評価4.10(4.3、3.8、4.1、4.2、4.2) 回収率86.7% 科目GPA3.3</p> <p>本来は住宅のつくりの専門用語だけでなく作図を学んでいただきたかったがオンデマンド授業で作図についての授業が十分にできなかったことが残念だった。来年度は作図についても授業充実をしたいと考えている。</p> <p>課題・定期試験共に オンデマンド授業を配慮し わかりやすい内容としたためGPAが高くなったこと、来年度は応用内容へのチャレンジができる内容に変更したい。</p>
A201012 建築材料	<p>目標 建築物の材料に要求される事柄を整理する。建築材料の評価法について理解する。建築材料の使い方について理解する。建築材料に求められる特性を理解するとともに、各種建築材料の製造法と特性について学びます。</p> <p>授業で取り上げる、無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、特に良い建築を設計するために、正しく建築材料の特性の理解することが必要となります。</p>	<p>武田雄二・西脇進・鷺見勇平『図説 建築材料』(学芸出版社)の理解が深まるような授業資料をオンデマンドで発信し、ZOOMでの授業で説明を加えた。</p> <p>素材については 実材料なども準備していたが、学生に確認いただけなかったことが残念だった。</p> <p>また材料については説明がZOOMで行えたが、その材料の使われ方について内容が不足していたと感じる。</p> <p>来年度は材料の資料応用についても理解いただける内容にしていきたい。</p>	<p>授業評価4.30(4.4、4.3、4.3、4.3、4.4) 回収率86.7% 科目GPA3.6</p> <p>オンデマンド授業を配慮し、わかりやすい課題や定期試験をと考えたが、結果 容易な内容になってしまった。</p> <p>応用への挑戦ができるような課題を増やし、授業の充実を行いたい。</p>
A201044 卒業研究 I	<p>課題 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。そのために、所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>毎回ZOOMで発表をすることでの 自身の意見をどう伝えるかを考えていただけるような工夫をし 研究室内の他の学生についても意見が述べられるような環境を作り、各人の調整能力も高められる 授業形態を行った。</p> <p>これにより自発的に行動できる学生も増えたと感じた。</p> <p>来年度も継続していきたい。</p>	<p>授業評価(-----) 回収率0% 科目GPA2.9</p> <p>一部 自発的に行動できない学生への対応について検討をするべきだったと反省する。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201001 建築概論	建築学の入門編として、歴史や構造、法規や設備など今後学修する授業の基礎的知識を知ることを目的としている。	教員2名による2種目に分かれての授業で、前半と後半に分かれ、建築と法規、建築と設備や、建築とインテリア、建築と空間認知などに関する授業を行なった。視覚的にわかりやすい資料を用意し、身近な例を取り上げて実施した。また、より理解と興味を深めるために、毎授業に調べ学習を取り入れた。	授業評価 4.1(4.2, 3.8, 4.1, 4.3, 4.3) 建築の専門教育の全体が把握できる科目であるため、視覚的にかつ身近な事例を通して、興味を持って学習してもらえるように今後も行いたい。
A201005 建築計画 I	建築計画のために必要な視覚的感覚や、身体と人間行動について理解することができる。建築の計画の方法を理解することができる。用途別による建築計画を理解することができる。	同時期に行われている建築概論からの流れも配慮し、初学生にも興味を持ってわかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に調べ学習を取り入れ、授業で学んだ用途の建築事例についてより理解を深めてもらうようにした。また、授業時間内には、授業内容確認のための確認演習問題を行い、学習の定着をはかった。	授業評価 4.3(4.4, 4.1, 4.2, 4.3, 4.4) 昨年度の反省を踏まえ、調べ学習や確認演習問題が提出することを目的としないように。都度、学習の目的と意義を都度何度も伝えた。遠隔のため、1年生でも簡単に回答できる状態をつくり、提出で生きようとしたが、やはり内容の把握を仕切れない学生もいるため、今後も丁寧な目的と意義を伝え続けるようにしたい。
A201006 インテリアデザイン I	住空間の機能、素材や色彩、光、設備、寸法、デザインスタイルなど、住宅設計やインテリアデザイン、インテリアコーディネートに求められる基礎知識を身につけ、簡単な住宅のプランニングができるようにする。また、「生活」と「もの」、「人」と「空間」の関係についての基礎を学び、住空間の機能、デザインスタイル、色彩、基本寸法などの住空間におけるインテリアデザインを理解することを本講義の目的とする。	同時に開講されている建築設計製図Ⅰの住宅設計を意識し、住宅設計をする上でヒントとなる住宅の機能やインテリア空間内での心理効果、動作空間などの基礎的情報の提供をするものとした。さらに、後期に実施されるインテリアデザインⅡにつながることも意識し行なった。授業間で繋がりを持って学び、学修できるように行うことで、専門科目の定着をはかったことにより、インテリアや住空間に興味をより抱く学生が増えたと感じている。	授業評価 4.3(4.5, 4.2, 4.1, 4.4, 4.4) 遠隔授業であったことより、いつでも何度でも資料を確認できたことは良かった点であると思われる。対面授業戻った際にも資料をオンデマンドで常に見られるようにするようにしてもよいと感じた。
A201014 インテリア設計 I	インテリア設計の基本的知識と表現技術として、「家族」「住まい」の各関係と基本構成要素、基本的条件、エレメントの学修を通して、コンセプトワークから計画・設計・コーディネートボードまでできることを授業の達成目標とします。	まず、家族や住まうことについての基礎知識を学び、そして、建築ストック増加の社会問題を知ってもらう。その上で、内部空間の空間計画や、演出方法などを事例を通して学修し、それらを踏まえた上で価値のある居住空間の提案をしてもらった。プレゼンテーション技術も習得しつつ、コンセプトボード、各種図面、マテリアルボード、コーディネートボードを制作した。インテリアエレメントの選定も実際に販売されているメーカー商品カタログから選定することで、より実践的に学び、就職活動時のポートフォリオとしても活用できるものを意識させた。	授業評価 4.5(4.9, 4.1, 4.1, 4.9, 4.6) 履修者数全員が異なる提案をし、また、それぞれの技術も異なるため、個別に対応した。遠隔授業により、大学にしかないソフトの使用を希望するものには、授業時間外でも作業ができるように適宜質問には対応するようにした。
A201042 卒業研究 I	ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。	卒業研究Ⅰにおいては、高等教育の総合成果として、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。大学最後の課題になるため、学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネージメントやタスクマネージメントが自主的にできるよう誘導した。学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。	授業評価 5.0(5.0, 5.0, 5.0, 5.0) 16週と限られた回数での実施になるため、時にはこちらから先回りして指導してしまうこともあるため、学生自ら動き、考えられるように見守ることもしていきたい。しかし、それぞれのベースも把握し、個別に対応するようにしたい。
GA20107 建築学特別研究A	授業時間内で、研究の目的や方法、手順などディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。	修士研究であることを意識して、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネージメントやタスクマネージメントが自主的にできるよう誘導した。学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。	授業評価 5.0(5.0, 5.0, 5.0, 5.0) 留学生である場合、ゼミとは別に日本語能力を向上してもらった課題を提示し、研究成果をあげるように誘導する必要があると考える。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201018 建築構造実験	1) 実験により実構造物の挙動を体感し、破壊性状を考えることにより、洞察力を涵養する。 2) レポートを作成することで論理的思考ができる。	本講義は1)理論的講義、2)実験、3)レポート作成で構成されます。1)および3)は対面式の講義で、2)は実験室で試験体または載荷・測定装置の準備、載荷実験を行います。従来の画一的な実験ではなく、学生自身がディスカッションを行いながら、実験方法から検討するPBL形式の授業としています。本年度前期は、遠隔授業のため、実験室ではなく、自宅にて行える実験を設定し、その計画および実験を行うこととした。学生の到達レベルを見る限り、当該授業の目的は十分に達していると考えられる。	授業評価: 4.4(4.6, 4.2, 4.3, 4.4, 4.4) 回収率(26.3%) 科目GPA3.1 遠隔授業の影響もあり、学生の共同作業が困難ではあったが、学生の成績状況と授業評価から判断して、当該授業の学修到達レベルに十分な授業ができたと言える。今後はさらに授業に工夫を加えて、より深いレベルまで理解できるようにする。
A201008 建築構造力学	断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。 多種多様な構造物(建築物)の力の流れを理解できる。	対面式の講義の予定であったが、全て遠隔授業実施した。動画およびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。演習時間を十分に確保することができたが、一人ひとりの学生に対するフォローで不十分な面があった。	授業評価 4.29(4.4, 4.1, 4.2, 4.4, 4.4) 回収率(37.0%) 科目GPA3.1 学生の自己評価による学修到達レベルと成績評価による学修到達レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。
A201037 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表 遠隔授業の影響もあり、実験系の研究テーマにおいて少し遅れが生じた。研究指導方法を再検討する必要がある。
A201028 構造解析	構造計画、構造設計の手順を理解できる。実務で実施される設計行為について一連の流れを理解できる。 計算法の習得と地震外力の考え方を習得し、具体的な計算ができる。	前半の授業において、基礎的な力学の復習と構造計算を実施し、後半の授業では構造解析を実施した。力学の演習における基礎的な知識不足や後半の構造解析における解析結果を意味を読み取ることができない学生は、昨年度に比べると減少した。	授業評価 4.6(4.5, 4.5, 4.5, 5.0, 4.5) 回収率(12.5%) 科目GPA2.8 前年度の反省を踏まえて授業内容を改善したところ、学生の学修到達度は上昇した。カリキュラム改定により本科目は本年度までであるが、この授業での知見を他の講義に活かしていく必要がある。
GA20115 設計演習A	各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。	構造分野の実践的設計能力の向上を目的として、構造図面の作成を中心に課題を行った。試験課題を含めた課題の状況を見ると、遠隔授業ではあったが、受講生の設計能力の向上に十分寄与したと言える。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表 大学院講義の性格上、専門領域外となる受講生も多い。そのため、基礎的な説明の時間を増やす工夫をする。
GA20112 構造設計論	構造設計に関する基礎的知識を習得する。各種構造形式の構造規定を理解できる。構造計算方法を理解し、身につけることができる。 過去から現在までの技術の変遷を理解できる。	構造分野の実学的知識の向上を目的として、建築構造に関する基礎的な知識から応用的演習を行った。試験課題を含めた課題の状況を見ると、遠隔授業ではあったが、受講生の構造に関する能力の向上に十分寄与したと言える。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表 本年度の履修者は、専門領域外となる受講生も多いため、基礎を中心に実施した。次年度も履修者の状況を加味して授業内容・方法を工夫する必要がある。
GA20103 建築学特別研究A	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	0
GA20118 建築学特別研究C	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	0

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201001 建築概論	<p>達成目標 建築で学ぶ科目のつながりを理解できる。 建築学でのそれぞれの領域の科目構成を理解できる。 本学での建築学と、建築士資格での領域の構成対応について理解できる。</p> <p>教育効果 多岐に渡る建築のさまざまな分野についてその内容や、それらの分野が互いにどのような関わりをもつのか、この科目を通して建築学の基礎を理解してもらいます。 建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要となります。</p>	<p>遠隔授業になったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価4.1(4.2、3.8、4.1、4.3、4.3) 回収率94.4% 科目GPA3.6 授業評価は高く、受講ノートもよく書かれています。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
A201004 建築の歴史	<p>達成目標 建築の歴史的な流れを理解できる。 建築様式の違いを理解できる。 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。</p> <p>教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理解することが大切となります。</p>	<p>遠隔授業になったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価4.4(4.4、4.1、4.4、4.4、4.4) 回収率86.7% 科目GPA3.4 授業評価は高く、受講ノートもよく書かれています。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
A201022 西洋建築史	<p>達成目標 建築の歴史が単なる様式の変遷史ではなく、社会制度や技術発展の表徴の歴史でもあることを理解すること。 個々の学生が将来、建築家として歴史遺産を保全し、活用していく自らの指針を獲得すること。</p> <p>教育効果 建築はその時代その地域の人々の要請に応じて創出されるため、建築様式はその時代と地域の特徴を体現し、その時代の文化と社会を表徴しています。建築様式を検討することにより、その背景となる社会や思想との関連性を知り、建築が都市形成とどのような関わりをもって成立してきたかを学ぶことが大切となります。</p>	<p>遠隔授業になったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価4.1(4.2、4.0、4.1、4.0、4.4) 回収率26.2% 科目GPA3.5 授業評価は高く、受講ノートもよく書かれています。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
A201036 卒業研究 I	<p>達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価4.8(5.0、4.5、4.5、5.0、5.0) 回収率40.0% 科目GPA3.8 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
GA20126 建築時事	<p>達成目標 1. 日本国内の建築時事はもちろんのこと、海外の建築の動向も含め、近年に話題となっている建築や都市関連の事象における知識を広げること。 2. プレゼンテーションでのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと。</p> <p>教育効果 情報収集の能力向上を高め、また情報の処理能力を磨くことが求められます。さらに、単に情報を持ち得るだけでなく、その情報を活用し、人に伝える手法を向上させるものとなります。</p>	<p>遠隔授業になったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率100.0% 科目GPA5.0 特に問題はないようであった。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
GA20102 建築学特別研究A	<p>研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。</p>	<p>学生の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価— 回収率—% 科目GPA— 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A201009 建築CAD I	建築CADソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築CADソフトによる2次元作図ができる。 建築CADソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。	下記、授業改善欄にも記したように、今回はCAD授業でありつつも、受講者全員がPCを用いたCAD作図を行わせることができなかった。宣言解除後は多くの学生が取り組むことが可能な状況であったにもかかわらず、強制することができないために、一部学生のみが任意登校の上でのPC操作指導に臨むに留まった。これは単に学生の意欲の問題もありつつも、他の履修科目の課題出題状況などによる負担感も大きかったものと想定される。	授業評価4.2(4.3、4.1、4.2、4.1、4.2) 回収率38.6% 科目GPA2.1 本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業となった。これにより、受講生全員にJw-cadの操作を課題として課すことが困難となり、教科書を用いた学習を主にせざるを得なかった。適宜、自宅でのPC捜査が可能な学生に対して、発展課題としてCAD作図の課題を出題したり、宣言解除後は大学PC実習室での希望者対象補講を展開した。今後はこうした事態が再来することも折り込み授業計画を練っておく必要がある。
A201023 専門ゼミナールⅢ	建築に関わる課題に積極的に取り組み、解決策・提案をまとめることができる。	教科書読解による課題と、グリッドプランニング課題の大きく2種類を出題し、特に後者については提出物に都度、コメントを返し、また、任意参加のZoomを用いた補足説明や質問時間も設けた。その結果、通常の対面授業よりも密に学生へ指導することが可能となった。ただし、一向に提出しない学生やZoomに不参加の学生との格差が生じざるを得なかったのは悩ましい。	授業評価4.4(4.4、4.3、4.1、4.4、4.5) 回収率22.5% 科目GPA2.4 しっかり取り組めた者とそうでない者の格差解消へ向けて、後者に対するフォローのあり方を検討する。対面授業が可能であれば、適宜、補習を組み合わせた展開が必須と考える。
A201027 建築経済学	建築と経済の関係を理解するための基礎知識が理解できる。	オンデマンド授業へ向けて、各回のテーマに関する資料を、通常のPowerPointをベースに説明部分を新規スライドとして追加することで、読み物形式とした。この資料を読んだ上で、毎回、意見・感想をWEB提出してもらい、それに対してコメントした。また、任意のZoom意見交換会を毎回実施した。結果として、それぞれの学生の意欲に応じた受講が可能となり、通常の対面授業に比して充実したフィードバックが可能となった。	授業評価4.3(4.3、4.0、4.3、4.5、4.3) 回収率36.4% 科目GPA2.7 上記、自己評価にも記したようにオンデマンド授業によってフィードバックが充実したことが評価できる。全面的に対面授業に復したとしても、こうした効果は別のかたちで担保したい(毎回の受講ノートを対面ではなくWEB提出させるなど)。ただし、資料の読み込みが不十分な学生や、コメントに労力を割けなかった学生には、フィードバックも簡易的なものにならざるをえず、そうした学生に対しては対面の良さも生かした授業展開が必要と考える。
A201029 住宅産業論	住宅産業が成立した経緯や要因を説明することができること。また、これからの住宅産業について、課題や可能性を自らの意見として述べるができること。	オンデマンド授業へ向けて、各回のテーマに関する資料を、通常のPowerPointをベースに説明部分を新規スライドとして追加することで、読み物形式とした。この資料を読んだ上で、毎回、意見・感想をWEB提出してもらい、それに対してコメントした。また、任意のZoom意見交換会を毎回実施した。結果として、それぞれの学生の意欲に応じた受講が可能となり、通常の対面授業に比して充実したフィードバックが可能となった。	授業評価4.2(4.4、3.8、4.2、4.2、4.2) 回収率17.2% 科目GPA3.0 上記、自己評価にも記したようにオンデマンド授業によってフィードバックが充実したことが評価できる。全面的に対面授業に復したとしても、こうした効果は別のかたちで担保したい(毎回の受講ノートを対面ではなくWEB提出させるなど)。ただし、資料の読み込みが不十分な学生や、コメントに労力を割けなかった学生には、フィードバックも簡易的なものにならざるをえず、そうした学生に対しては対面の良さも生かした授業展開が必要と考える。
A201040 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	頻繁にやりとりすることで、充実した取り組みができた者がいる一方で、ほとんど課題が進捗しないままにいたずらに時間を過ごした者もあり、学生により取り組みに濃淡ができてしまい悩ましい格差が生じた。卒業研究はどうしてもドリル形式にはできないため、探究的な課題内容を受容できない学生にどう伝えていくかが課題と痛感した。	授業評価4.3(4.5、3.5、4.5、5.0、4.0) 回収率28.6% 科目GPA2.3 原則、マンツーマンかつ具体的に指示を出し、あわせて提出期限を細かく区切ることで、上記問題点を少しでも解消していく。